

畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会
2023年 3月23日
第28号



ご挨拶

畿央大学後援会 会長
中永 和美

会員の皆様におかれましては、平素より後援会活動に対し、ご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新たな門出にふさわしい、春光天地に満ちて快い季節となりました。この春、畿央大学を巣立つ卒業生を愛しんでこられた保護者の皆様には、心よりお喜び申し上げます。しっかりと真美の丘に息づいた畿央大学の門を少し緊張した面持ちでくぐられた入学の時から、今立派にたくましく成長された姿に、在学中の様々な思いがこみ上げておられることでしょう。

「卒業」、それは、あなたにとっての金メダルであり、辿り着きたかったゴールです。本当によく努力しました。でも、そこで満足してしまったら、あなたの成長は止まってしまう。その先も、人生は続いていくし、金メダル、ゴールだと思うものも様々に変わっていきます。達成した喜びをしっかりと味わったら、次のチャレンジに進みましょう。畿央大学で培った「自分」に誇りと自信を持って、自分の選んだ道に進まされることを願っています。

また、ご入学をされます新入生の皆様、保護者の皆様おめでとうございます。畿央大学は経験豊富な先生方が、一人一人の心に寄り添いながら「個」に応じた指導をしてくださる「学びの環境」が整っています。「やさしさをチカラに変える」これは開学以来大切にされているキャッチコピーです。本気で取り組んでも壁を破れない時があります。次に叩く一回で壁は破れるかもしれません。それは、自分を信じられるかどうかです。自分を信じる「チカラ」を畿央大学が育んでくれます。そして、優しい社会の実現をめざしましょう。

後援会では、今後も学生生活の充実のための必要な援助を行い、畿央大学の発展に貢献していきたいと思っております。これからも、後援会活動に皆様の温かい支援とご協力をお願いいたします。

結びになりますが、冬木正彦学長先生をはじめ、先生方、保護者の皆様のご多幸を心よりご祈念申し上げます。

今年は、
7月1日(土)
です!!

2023年度保護者懇談会・後援会総会を7月1日(土)午後12時に冬木記念ホールにて開催いたします。詳細は、5月末にご案内いたします。ご予約いただき是非ご参加ください。

ご挨拶

学校法人冬木学園 理事長
畿央大学 学長
冬木 正彦



後援会の皆様には本学における教育研究活動に対し、ご理解と継続的なご支援をいただき誠に有難く、心よりお礼申し上げます。この春に卒業される皆さんが在学中の学びをそれぞれの分野で活かして人の幸せのために貢献されることを祈念するとともに、卒業生の成長を見守ってこられた保護者の皆様には心よりお礼とお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染防止対応により、社会生活でのコミュニケーションの手段が一挙に変わり、大学の授業の方法も動画の利用やアクティブラーニングが全面的に導入されるなど大きく変化しました。しかしながら、大学での「学び」が、専門知識と技能の学修と、豊かな教養を会得することであることは変わっていません。

高度化する専門知識と技能を効率よく効果的に学ぶことについては、畿央大学では授業方法やICT活用により、学生一人ひとりの学修支援を進めています。一般的な教養の知識はネット上で、歴史・文化・芸術など幅広い分野での解説動画が際限なく提供されるように激変しました。学生の皆さんは羅針盤なしに、知識の大海で波をかぶっているような状況に置かれています。

教養知識を備えることは個人の興味関心が基本ですが、将来の社会で活躍する際に、基本的な素養として備えておく必要のあるコア知識の学習のため、「次世代型教養プログラム」を開設しています。文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されている「情報処理演習」を基にして、「数理・データサイエンス(DS)」の科目や、専門科目の中でDSを系統的に学べるようにして、次世代型の教養知識を学び、将来の社会に貢献できる素養を育めるようにしています。

保護者の皆様には、学生の皆さんの成長を見守っていただき、学生と教職員が一体となって進めている畿央大学の教育へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS

ご挨拶	P 1・2
学科のページ	
健康科学部 理学療法学科	P 3
看護医療学科	P 4
健康栄養学科	P 5
人間環境デザイン学科	P 6
教育学部 現代教育学科	P 7
授業日カレンダー	P 8



困難を克服する力

健康科学部長
健康科学研究科長
臨床細胞学別科長
植田 政嗣

畿央大学後援会の皆様には、常日頃より畿央大学の教育活動に対し、温かいご理解と多大なご支援をいただいていることに深く感謝申し上げます。

21世紀に入りこれまでの20余年間に通信技術や情報処理の電子化が加速度的に進み、あらゆる面でライフスタイルが急速に変化してきました。また、新型コロナウイルス感染の蔓延、温暖化が象徴する地球環境の変化、人工知能（AI）の劇的な進化、さらにはウクライナ紛争に端を発するエネルギー危機や物価高騰など、世の中はこれまで予測し得なかった方向へ劇的に変化しつつあります。

卒業生の方々は、社会人として就職する方、より深い学問および技術を求めて大学院に進学する方、上位のライセンスを目指して専攻科に進まれる方など、行く道は様々であります。卒業という人生の節目を迎えて希望に胸膨らませておられることと思いますが、このように複雑で変化の激しい時勢に対応していくためには何が必要なのでしょう。それは、一言でいえば「困難を克服する力」であると思います。職場や身の回りで起こる様々な出来事はもとより、国内外の政治経済の動向や地球規模の環境変化、さらには安全保障を含む国際情勢にも常日頃から関心を持ち、自身の感想や意見をしっかり持つ努力をして頂きたいと思います。何事に対しても人から指図されるだけでなく、自分の意見を持ち、自分で考え、創造力をふくらませて対応すれば、いかなる困難も克服できると考えます。これは、すなわち「たゆまなく自己研鑽を続ける力」ではないかと思えます。予測不能で不確実な現代社会においては、自らの志を高く掲げ、既存の常識にとらわれず信念を持って行動し続けることがきわめて重要です。

「徳をのぼす」、「知をみがく」、「美をつくる」という本学の建学の精神は、まさに自己研鑽を怠らず困難を克服していくことの重要性を説いたものと言えます。皆様が、畿央大学で学び得た知識と技術を十二分に生かして、常に自己を啓発し有意義な人生を送られることを心より祈念しております。

「おわり」のない始まり

教育学部長
教育学研究科長
前平 泰志



畿央大学後援会の皆様には、常日頃より本学の教育と研究に関しまして、温かいご理解と多大なご協力をいただき、心から厚く感謝申し上げます。

春の訪れは、大学に身を置く者にとって気持ちが引き締まります。大学の春は、卒業式から始まり、入学式でピークを迎えます。

今年の卒業生は、新型コロナウイルスの渦中のなかで学生生活を過ごしてきた皆さんでした。大学の授業がオンラインから始まるという新しい教育の様式に戸惑った学生諸君もいたと思いますが、そのなかであってこれまで以上に学習成果を収めてくれたことは、就職状況など様々な事実から伺えます。若い人たちがキャンパスから巣立って新しい世界に飛び込んでいくとき、この不確実な時代を乗りきることでできるきっかけを身体ごとつかんでくれたことを共に喜びたいと思います。

また、大学の建学の精神である「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」は、在学中だけでなく、卒業後も持ち続けてほしいと思います。卒業は人生の「おわり」ではありません。建学の精神は、一人の人間のたゆまない努力のプロセスの表現でもあるからです。

新しく入学された皆さんは、新しい世界を目の当たりにして期待に胸を膨らませていることでしょうか。今年は、本学にとっても、20周年を迎える節目の年でもあります。加えて、4月からは「畿央大学附属広陵こども園」が新たに開設されます。これによって幼児教育は一層充実したものとなることでしょうか。英語教育コースも、セメスター留学が昨年開始されることになりました。養護教育コースも一層の充実を図るためにカリキュラムの改編を行いました。教育学部が主となって行ういろいろな記念シンポジウムも目白押しです。躍動する大学のなかであって、充実した学園生活を送ることを心から願っています。

このような大学の多彩な活動の一端をお話できるのも、後援会の皆様の支えがあってこそだと存じます。今後とも、なお一層皆様方のご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

■ 建学の精神

徳 をのぼす

豊かな人間性、コミュニケーション力と
思いやりの心を身につける

知 をみがく

科学的認識に支えられた
知性とたゆまぬ探究心を培う

美 をつくる

豊かな感受性をもち
創造する力を磨く

■ 畿央大学の歩み

2003年 4月	畿央大学健康科学部 開学
2006年 4月	教育学部現代教育学科 開設
2007年 4月	大学院健康科学研究科 修士課程 開設
2008年 4月	健康科学部看護医療学科 開設
2009年 4月	大学院健康科学研究科 博士後期課程 開設
2012年 4月	助産学専攻科 開設
2014年 4月	大学院教育学研究科 修士課程 開設
2019年 4月	臨床細胞学別科 開設

メッセージ

健康科学部
理学療法学科
学科長
庄本 康治



保護者の皆さまには日頃より理学療法学科の運営・教育にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

2022年は新型コロナウイルスの影響を受けながらも、少しずつ平時に戻りつつある事を実感できた1年でした。一方、平時と比較して、グループワーク時のコミュニケーション能力の低さ、友人関係の希薄さなども垣間見え、未だにコロナ禍である事を改めて痛感しました。大学生活が正常化するに従ってこれらの問題点も少しずつ改善し、いつもの理学療法学科の明るさを取り戻しつつあることも感じています。

さて、2022年から「やささをチカラに変える次世代リーダー育成セミナー」を開始しました。一定回数以上出席し、レポートを提出すれば、大学がセミナー修了証書

を発行し、就職活動時に有効活用しようと考えています。セミナーの内容は、①理学療法士の光と影②大学病院の理学療法士とは③チーム医療と理学療法士について④女性理学療法士が活躍できる場所⑤臨床・教育・研究の3本柱が整ったスポーツ理学療法士の魅力⑥自分らしさ×理学療法士の6回でした。講師は各分野でご活躍されている本学卒業生で、先輩の熱い想いが伝わり、学生さん達の琴線に触れることができたと感じています。成績、単位修得には関係ありませんが、自ら参加し、「徳をのばし、知をみがき、美を作る」理学療法士学生として目覚めて欲しいと思っています。

国家試験への取り組み

今年度の理学療法士国家試験は、2月19日(日)に実施され、合格発表は3月23日(木)になります。本学では6年間合格率100%を続けてきましたが、残念ながら昨年は1名の不合格者を出しました。最近10年間の成績は、受験者662名中合格者660名(合格率99.7%)と1学年60名以上の養成校の中で最も高い合格率ですが、今年度からは再度合格率100%を目指し、頑張っていきたいと考えています(図1)。

一方、全国の合格率は2年連続80%以下と、非常に厳しい状況にあります。本学では、必須科目である「理

学療法総合演習」の中で国家試験対策をしています。この科目では毎週模擬試験を行い、その成績を学科で共有しています。また全国有料模試(大学が半額負担)も年10回行っており、全国における自分の位置を認識させています。12月の結果では今年も全国平均より23点高い状態を維持しています(図2)。成績の振るわない学生に関しては、ゼミ

担任および国家試験対策委員が面談、口頭試問等を行い、学習のアドバイスや進捗状況を確認しています。また、委員会では昨年の不合格の原因分析も行っており、当日のマークミスが原因の1つと考えています。授業の中でもマークミスについて十分指導していますが、今年度の受験者には昨年の教訓も含めてしっかりと伝え、ベストを尽くせるよう取り組んでいます。

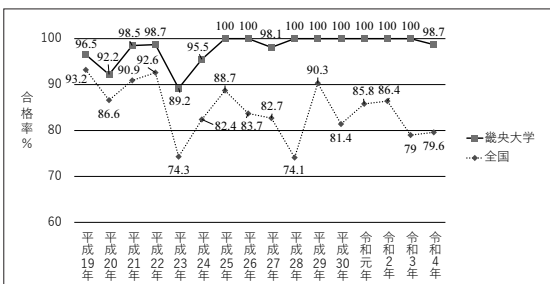


図1 国家試験合格率の推移

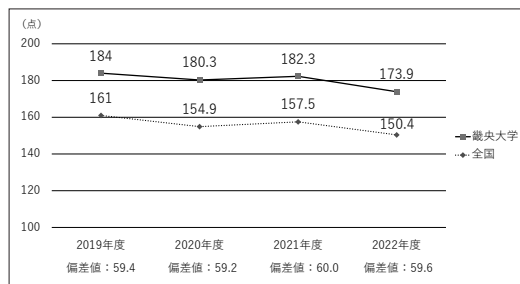


図2 有料模試 全国平均との比較(年度別:12月)

令和4年度 卒業研究発表会を開催! ~教員レポート

今年度の理学療法学科の卒業研究発表会は計25演題の発表が行われました。研究テーマは、運動器、脳科学、呼吸器系、物理療法、動物実験による基礎研究、コミュニケーション、高齢者、ウィメンズヘルスや統計など多岐にわたりました。理学療法学科では3年次に各教員のゼミへの所属が決まると、そこから4年次の11月に行われる「卒業研究発表会」に向けて、先行研究を調べたり、ゼミ生同士で相談をしたり、教員の指導を仰ぎながら研究計画を立てていきます。昨年、一昨年はコロナ禍の影響もあり学外でデータを取る研究はほとんどありませんでした。しかし、今年はコロナ禍以前と同等とはいかないまでも学内だけでなく地域の方に協力頂いてデータを取っている研究も増えており、感染対策をしっかりとった上で徐々にできることが増えてきているのを実感しました。全体として今年もよくまとまった発表だったと思いますが、個人的にはウシガエルの心臓を用いた生理学実習の項目の検討についての発表を興味深く聞きました(理学療法学科には獣医の教員がいます)。今年度も感染対策を行った上で、無事に卒業研究発表会を開催することができて良かったと感じています。普段は「聞く」側であることが多い学生たちにとって、冬木記念ホールという大きなホールに立って発表することは大いに緊張することだったと思いますが、同時に貴重な

経験になったことと思います。7分間という発表時間は準備の前には長いように感じましたが、実際に発表する段階になると思いの外短く、伝えたいことを時間内にまとめるのに苦労した学生も少なくなかったと思います。3分間の質疑応答では、教員からの鋭い質問に緊張しながらも自分たちの考えを述べることでできていました。さらに、今年度は聴講していた3回生からも例年より質問のための挙手が多かった姿が印象的でした。



今回の発表が満足いくものだった学生もいれば、心残りがある学生もいるかもしれません。しかし、卒業研究を立案、実施していく中で分からないことを深く探求したこと、まだまだ感染対策などで制限も残る状況で今できる範囲で最大限のことをするために工夫をしたことは、きっと臨床に出た時に患者さんにより良い医療、より良い理学療法を提供し続けられる力になると思います。

助教 梶原由布

メッセージ

健康科学部
看護医療学科
学科長

河野 由美

後援会の皆様には、いつも本学の教育にご理解と多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

看護系大学では保健師助産師看護師学校



養成所指定規則の改訂に伴い、2022年度入学生より新カリキュラムに移行しております。指定規則改訂の趣旨では、①「高齢化が一層進む中で、地域医療構想の実現や地域包括ケアシステム構築の推進」②「急速に進む情報通信技術（ICT）導入の対応」に関することが言及されております。②のICT導入についての本学の取り組みは、第26号後援会便りで記しましたので、本稿では①の「地域包括ケアシステム構築推進」の取り組みについてご紹介させていただきます。

本学は開設時より「チーム医療ふれあい実習」や「離島・へき地医療体験実習」など、多職種連携、地域で生活する人を見る視点を重視し、時代を先取った特色のある

カリキュラムを構築してきました。今回の新カリキュラムでも、新たに「地域包括ケア実習」を2回生前期に設定し、学生が早い時期から地元創成の観点から、地域包括ケアチームの一員として多職種連携・協働のあり方や、ヘルスプロモーションに関して学べるようにしています。「地域包括ケア実習」は今年の8月に初めて実施する予定ですが、近郊の地域包括支援センターでの実習生受入れ・協力の了解を得て準備をすすめております。今後も、建学の精神を礎にして、時代の要請に即した人材育成を行ってまいりますので、後援会の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

国家試験・採用試験への取り組み

看護医療学科は2008年に開設され、看護師国家試験受験を過去11回経験してきました。結果は図表の通りで、合格率はいずれの年度でも全国平均を大きく上回り、多くの年度で100%を達成しています。昨年2月に実施された国家試験では2年連続で看護師・保健師・助産師の3職種全てで100%の合格率でした。国家試験は各専門職になれるレベルの知識を有しているかを判定するためのものですが、



学生の専門的知識修得度を確認できるものでもあります。いわば我々教師側の教育が問われるものでもあります。国家試験以外にも学生のレディネス・学修到達度を測るための有効な手段に業者模擬試験（模試）があります。模試には様々なものがありますが、試験実施時期が統一されていないと試験問題漏洩があり、信憑性のある情報が得られませんが、全国一斉に実施する模試ですと正確な学生の知識が測定できます。12月に実施された全国公開模試では309校の受験がありましたが、本学は第6位の成績でした。特に専門職となる上で重要であるものの、一般的に学生が苦手とする「人体の構造と機能」では全国3位の好成績で

した。しっかりと専門的知識の獲得は学生の財産となり、看護職として働く上で大きな糧・自信にも繋がると考えられます。こうした成果は一朝一夕では得られず、学生や科目担当教員の努力はもちろんのこと、1回生からの担任と国家試験対策支援室が連携して学生を支援することが必要となります。今後も学生の「信頼される看護職になりたい」との夢が実現できるように、しっかりと支援をしていきたいと思っております。

看護師国家試験結果

	合格率	合格者/受験者	全国平均合格率
2012年3月卒 1期生	100%	71名/71名	95.1%
2013年3月卒 2期生	98.9%	92名/93名	94.1%
2014年3月卒 3期生	100%	74名/74名	95.1%
2015年3月卒 4期生	100%	85名/85名	95.5%
2016年3月卒 5期生	100%	84名/84名	94.9%
2017年3月卒 6期生	97.8%	90名/92名	94.3%
2018年3月卒 7期生	100%	93名/93名	96.3%
2019年3月卒 8期生	100%	91名/91名	94.7%
2020年3月卒 9期生	98.9%	87名/88名	94.7%
2021年3月卒 10期生	100%	95名/95名	95.4%
2022年3月卒 11期生	100%	85名/85名	96.5%

※すべて新卒のみ

認知症ケアサークルが「2022年度Orange Project® 記念式典」にオンライン参加!

12月18日（日）に「2022年度Orange Project® 記念式典」が開催されました。

式典は感染防止対策を講じながら、熊本県（熊本県立大学講義室）とオンライン（Zoom）参加のハイブリット型で実施されました。昨年に引き続き、私たち畿央大学オレンジプロジェクトのメンバーはオンラインで参加しました。第1部では、顧問の先生方からの挨拶、活動報告、来賓祝辞、新年度の役員の紹介が行われました。学生による活動報告では、畿央大学から看護医療学科2回生の大久保翼さんが、コロナ禍でもリモートと対面での活動を平行しながら実践していることを発表しました。第2部では、今年度の活動を通しての感想、これからやってみたいこと、また逆に困っていること、大学間交流について小グループで意見交換やその内容を発表し、お互いにアドバイスや今後の活動の方針などを話し合いながら内容を深めました。今年度は畿央大学から功労賞が1名選ばれており、（オンライン上で）賞状をいただくことができました。日本全体で急速に高齢化が進んでいる現在、およそ高齢者は10人に3人の割合で暮らしています。とくに高齢者は人間関係の変化から孤立しやすくコミュニティ内のつながりが希薄になりつつあります。

そのような中で、地域の人・次世代の担い手である若い人



が高齢者とながらを持ち支えていくことは非常に大切なことです。ただ小さなコミュニティでの活動だけではなかなか良いアイデアを生み出すのは難しいです。したがって他の大学や他の地域で行われている活動も取り入れつつOrange Project®を発展させていくことは、高齢者が地域の人・若い人とのつながりを持ち高齢者や認知症の方が生き生きと生活できることを支えるのに必要だと思っております。

現在はコロナ状況も落ち着きを見せ始め、徐々に活動を戻していこうとする動きも高まっているため、少しずつ対面での活動や交流が増えていくと考えられます。今後のOrange Project®の発展に貢献できるように、オンラインや対面での活動・交流に積極的に参加したり、地域の人や学生等が参加しやすい活動を考えていきたいと思っております。

2023年度も畿央大学Orange Project®をよろしく願います。看護医療学科2回生O・2回生T

メッセージ

健康科学部
健康栄養学科
学科長
栢野 新市



保護者の皆様には日頃より本学および健康栄養学科へのご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

後期の授業も終了し、学生たちは定期試

験のプレッシャーから解放されたものの、新年度への期待と不安が入り交じった状態なのではないでしょうか。授業期間中は多くの講義を受けて勉強し、様々な実験と実習の課題をこなすため時間に追われている様子を目にしています。春休みの授業の無い時間を充実させ、新しい学年に向けて鋭気を養って欲しいと思います。また卒業式を終えた四回生は、集大成であった管理栄養士国家試験を終えて一息つくとともに、期待と不安に胸を膨らませながら4月からの新生活に向けての準備に追われていることと思います。健康栄養学科で4年間学んで得た知識と経験を活かし、これから社会で活躍してくれることを大いに期待してい

ます。

この原稿を作成している時点で、政府が新型コロナウイルスの位置づけを2類相当から5類に移行する方針を発表しました。2類に位置づけられていることにより、陽性となった学生は登学ができなくなり多くの学びの機会を失ってしまいました。また、感染防止のために学生同士や教職員とのコミュニケーションも大幅に制限されてきました。新型コロナにより、学生生活において失われたものは計り知れません。今年こそは、通常の姿に戻った大学においてコロナ禍以前と同様に学生たちが充実した日々を送れることを願ってやみません。

国家試験への取り組み

管理栄養士国家試験は、4年間で学んだ専門科目のほぼすべて出題範囲となり、難易度の高い試験です。試験問題数は200問と多く、例年の合格基準は総合点60%以上の得点になっています。今年の管理栄養士国家試験は2月26日(日)に実施され、合格発表日は3月24日(金)です。こうした難関の試験に本学からも多くの学生が挑戦しています。例年、本学は、新卒の全国平均を上回る優れた合格実績をあげることができています。この実績は学生自身の努力に加え

て、1回生からの日々の授業の積み重ねと本学の国家試験対策によって達成できている

と考えております。

健康栄養学科の国家試験対策は、今年も万全の体制で学生を支援します。4回生では演習形式の授業を開講し、学外での国家試験対策講座の受講や学外での模擬試験も予定しています。4回生は模擬試験を1年間で7回以上受験することになり、繰り返し模擬試験を受けることで、本番の試験に向けて自身の弱点と実力を確認し学力の向上を図っています。

4回生は合格に向け、早めに国家試験対



策の自己学習に取り組み、勉強量を増やしていくことが大切です。教職員一同、学生のやる気を育むよう、厳しさと暖かさを兼ね備えた指導を心がけます。今後とも保護者の皆様のご協力とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「4大学対抗ピザバトル」で、大和丸なすを使ったピザが最優秀賞に! ～健康栄養学科・ヘルスチーム菜良

6月3日(金)～5日(日)にイオンモール大和郡山で行われた「4大学対抗ピザバトル」に、本学のヘルスチーム菜良*が出場しました。

(※ヘルスチーム菜良…管理栄養士養成課程を持つ4年制大学(畿央大学・近畿大学・帝塚山大学・奈良女子大学)で構成されており、食育啓蒙活動に取り組んでいます。)

各大学で「大和丸なす」をはじめとした大和郡山産野菜を使用したピザを1種類ずつ、合計4種類のピザを共同開発する「4大学対抗のピザバトル」と銘打ち、イオン大和郡山店「大和郡山フェア」にて販売しました。4大学のピザを食べようと、たくさんの人にお集まりいただきました。

本学のピザのコンセプトは、「和と洋の融合」。メインで使用する大和丸なすの特徴である「噛み応えのある食感」を活かせる「田楽」にこだわり、開発しました。なす田楽と言えば赤味噌ですが、赤味噌ではなく、塩分が控えめで、関西ではお雑煮に使用され馴染みある、白味噌を用いました。この白味噌に「洋」の要素であるホワイトソースを混ぜ、さらに白味噌の甘みとホワイトソースのこったり感を解消するた



めに「ゆず」を使用し、さっぱりとした味わいに仕上げました。開発にあたり、学生のみではなく、大和郡山市石窯焼きピッツェリアサンブーペー松原朱美シェフに試作のアドバイスをいただき、このピザが完成しました。

今回、納得のいくピザを開発するまでの過程は、非常に大変でした。しかしながら、野菜の種類や彩・ソースの配合割合・原価などさまざまな試行錯誤をメンバーとともに繰り返すことで、こだわりのピザを完成させ、お客様に提供することができました。

そして、結果発表です! 6月19日(日)に本学で授賞式が開催され、なんとありがたいことに「柚子香る白味噌風味の彩りピッツァ」が最優秀賞となりました。また、そのピザを紹介する販促ポスターについても最優秀にあたるイオン賞をいただき、嬉しいダブル受賞となりました。

ピザバトルに参加したことで、メニュー開発の楽しさや難しさ、他大学のアイデアも知ることができ、大変勉強になりました。来年もピザ開発をする機会があれば、挑戦したいと思います!!

健康栄養学科3回生F



メッセージ

健康科学部
人間環境デザイン学科
学科長
三井田 康記



平素より本学科の教育にご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。

卒業研究の講評会や学期末試験も終わり、学生たちは卒業や新学期を待つばかりとなりました。1月の

終わりまで、毎日、ゼミ室や研究室で卒業研究や卒業制作に励んでいた4年生も姿を見せなくなり、賑やかだった大学も急に静かになりました。

コロナ禍も4年目を迎えます。当初は戸惑いながら始めたリモート授業もやっと慣れたころに、対面授業に戻り、大学らしい授業形態を取り戻しつつあります。とはいえ、依然コロナの猛威は終息を見せていませんので、マスクをして人数を限った対面授業です。ここ3年程自粛してきた学外でのゼミ活動も復活しました。自治体や住民団体の要望を受け、歴史的建造物の実測活動や町並みの調査、まちづくりの手伝いなどゼミ活動は多様さを増しています。

新学期をむかえると、2年生が3学年にすすみ、ゼミ活動を担います。1年生は2学年になり、「建築・まちづくりコース」、「インテリアデザインコース」、「アパレル・造形コース」の3つのコースに分かれ、より専門的な勉強が始まります。一方、3年生は最終学年となり、いよいよ卒業研究や卒業制作が始まります。

授業は演習や実習を多く取り入れ、課題や模擬体験を通して、自分で調べ、考える力を身につけられるような構成になっています。来期も、学生たちはわれわれ教員の期待以上の頑張りや積極性をを見せてくれると期待が膨らみます。

2・3回生で奈良県立民俗博物館と大和民族公園を見学! ～人間環境デザイン学科「プロジェクトゼミ」～

人間環境デザイン学科で最も特色のある2・3回生合同の「プロジェクトゼミ」。

11月12日(土)にプロジェクトゼミの一環として合同見学会を実施しました。

2回・3回生95名と学科教員11名が参加し、大和郡山市にある『奈良県立民俗博物館』『大和民族公園』を訪問し、奈良に暮らす人々が改良と工夫を重ねながら伝えてきた大正から昭和初期の生活用具・農具の展示や当時の民家を見学してきました。

また、先生方が作成した民家に関するクイズや先生自身に関するクイズを学生たちが解いてまわる「クイズラリー」、民家の魅力が最大限に伝わる写真をテーマとした「フォトコンテスト」の2つのレクリエーションを企画し、交流を深めました。

感染状況を考慮しながら、こういった学生同士が顔を合わせる機会を増やし、仲間とともに4年間の大学生活を満喫してほしいと思います。



メッセージ

教育学部
現代教育学科
学科長
島 恒生



後援会の皆様には現代教育学科の教育・研究活動に、いつもご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。

新型コロナウイルスに対しては、まだまだ予断は許さないものの、少しずつウィズ

コロナの模索が始まっています。後援会の皆様におかれましても、学生の授業や生活について、ご心配をお掛けするとともに、ご理解とお力添えをいただき、ありがとうございます。

2022年度の授業は、感染対策をしっかりと行った上で、ほとんどを対面で行いました。顔を合わせ、直接話ができることは人と人との距離を縮め、小さな大学ならではのよさが大いに発揮されたと思います。また、大人数の授業で、オンラインのよさを生かせるものについては、一部、オンデマンドを活用して進めるなど、授業のバリエーションも増えました。

2022年度の教育学部の大きな出来事は、半年間の「セメスター留学」がスタートし

たことです。大学のホームページにも、学生レポートが随時発信されてきましたが、参加学生はとても有意義な6か月を送ることができたようです。

さらに、授業だけでなく、サークル活動なども活発に行われるようになってきました。例えば、夕方になると、大学のサンクンガーデンからノリノリの音楽が聞こえてくるなど、懐かしい光景が戻りつつあるように感じます。

これからも、私たち教職員一同、学生の充実した大学生活の実現に向け、精一杯努めて参ります。これまで以上に、後援会の皆様のご支援とご理解のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今年も大健闘の採用試験

14期生も、コロナ禍の厳しい環境での採用試験でしたが、大健闘してくれました。

公立小学校教諭の現役合格者は70名（合格率85.4%）でした。これは、過去最高だった昨年度（77.8%）をさらに上回り、現役合格率が4年連続7割以上となりました。奈良県で22名、大阪府・大阪市・堺市では26名と、小学校現場で畿央の卒業生が益々増えていくのが楽しみです。さらに、中学校・高等学校英語教諭2名（66.7%）、特別支援学校教諭3名（100%）、養護教諭11名（64.7%）と奮闘してくれました。特に、養護教諭は最多の現役合格人数となり、合格率でも過去2番目の大健闘でした。

公立保育所・幼稚園教諭は、25名が合格し、合格率100%と、素晴らしい結果となりました。実に、5年連続で、9割以上が

現役合格です。特に、大阪市で8名の合格は素晴らしい結果でした。

14期生と教授・公務員対策室、学部教員が丸となって生み出した大きな成果です。

以下は、卒業を迎えた学生の声です。「畿央大学のみんで頑張っていこう！という雰囲気があったからこそ、最後まで頑張る



ことができました。」「私は気が緩んでしまうときもありましたが、頑張る友人の姿を見て、戦っているのは自分だけじゃないと自分を鼓舞し最後まで頑張りぬくことができました。」「しんどい時ももちろんありましたが、みんなと勉強して、面接や実技試験の対策を一緒に考える時間が楽しかったです。」「

写真は、面接練習と養護教諭の実技指導の風景です。



セメスター留学がスタート

新型コロナウイルスのパンデミックの影響で延期になっていた英語教育コースの「セメスター留学」が2022年9月から始まりました。参加者は2回生7名、3回生4名の11名で、カナダのビクトリアに約6ヶ月間、ホームステイで滞在し現地の学校に通っています。

英語の運用能力を高めるとともに、いろいろな経験を通じて異文化理解を深めることが主な目的です。カナダの方だけではなく、様々な国から英語を学びに来ている方々と交流を行うため、異文化理解の範囲は英語圏に



とどまりません。現地でボランティアを行っている学生もいます。

留学生は2週間ごとに、経験したこと学んだこと、気づいたことをレポートしています。そのうちのいくつかを紹介します。「英語を話すことが楽しいと思えるようになってきた。」「英語という一つの言語を通して様々な国籍、様々な言語を話す人々と会話できることが素晴らしいと感じている。」「早い英語も聞き取れるようになってきた。」「異なる文化や価値観を持った仲間と英語を学ぶことができる環境に改めて感謝したいと思った。」「カナダでの生活が非常に充実していると感じ、このまま滞在したいくらい。」「などと、大きく成長して帰国してくれることを楽しみにしています。



授業日カレンダー

大学での授業は、前期・後期各15回行われます。①～⑯は授業曜日ごとの授業週数を表わしています。⑳週は最終授業期間は、定期試験、平常授業、補講が組まれます。ふだんの時間割と異なることもありますので、この期間の時間割は、前期は7月中旬、後期は1月中旬までに掲示します。
 注：補講はふだんの授業曜日・時限に関わりなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。
 注：休業日（日曜日・授業のない祝日）の事務取扱は行っていません。
 注：※印のついた日はキャンパスに入ることはできません。
 ■は授業期間外です（ただし集中講義等は行われることがあります）。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 土	1月③	1 木⑦	1 土⑫	1 火⑯	1 金	1 日	1 水⑥	1 金⑨	1 月 元日 ※	1 木⑯	1 金	
2 日	2 火④	2 金⑦	2 日	2 水⑯	2 土	2 月②	2 木⑥	2 土⑨	2 火 ※	2 金⑯	2 土	
3 月 入学式	3 水 憲法記念日	3 土⑧	3 月⑫	3 木⑯	3 日	3 火②	3 金	3 日	3 水 ※	3 土⑯	3 日	
4 火	4 木 みどりの日	4 日	4 火⑫	4 金⑯	4 月	4 水②	4 土⑥	4 月⑩	4 木	4 日	4 月	
5 水	5 金 こどもの日	5 月⑧	5 水⑫	5 土⑯	5 火	5 木②	5 日	5 火⑩	5 金⑬	5 月	5 火	
6 木	6 土④	6 火⑨	6 木⑫	6 日	6 水	6 金③	6 月⑥	6 水⑪	6 土⑬	6 火	6 水	
7 金	7 日	7 水⑧	7 金⑫	7 月	7 木	7 土③	7 火⑦	7 木⑩	7 日	7 水	7 木	
8 土	8 月④	8 木⑧	8 土⑬	8 火	8 金	8 日	8 水⑦	8 金⑩	8 月 成人の日	8 木	8 金	
9 日	9 火⑤	9 金⑧	9 日	9 水	9 土	9 月③ 授業日 (スポーツの日)	9 木⑦	9 土⑩	9 火⑭	9 金	9 土	
10 月	10 水④	10 土⑨	10 月⑬	10 木	10 日	10 火③	10 金⑥	10 日	10 水⑭	10 土	10 日 一般入試	
11 火① 授業開始	11 木④	11 日 20周年記念式典	11 火⑬	11 金 山の日	11 月	11 水③	11 土 公募推薦入試	11 月⑪	11 木⑬	11 日 建国記念の日	11 月	
12 水①	12 金④	12 月⑨	12 水⑬	12 土	12 火	12 木③	12 日 公募推薦入試	12 火⑪	12 金 休講日 (試験会場設置)	12 月 振替休日	12 火	
13 木①	13 土⑤	13 火 補講日	13 木⑬	13 日	13 水	13 金④	13 月⑦	13 水⑫	13 土 休講日 (試験会場設置)	13 火	13 水 卒業式リハーサル	
14 金①	14 日	14 水⑨	14 金⑬	14 月	14 木	14 土④	14 火 補講日	14 木⑪	14 日 大学入学共通テスト	14 水	14 木 卒業式	
15 土①	15 月⑤	15 木⑨	15 土 補講日	15 火	15 金	15 日 リーダーシップ入試 ※	15 水⑧	15 金⑪	15 月⑭	15 木	15 金	
16 日	16 火⑥	16 金⑨	16 日	16 水	16 土	16 月④	16 木⑧	16 土⑪	16 火 休講日 (試験会場設置)	16 金	16 土	
17 月① 履修登録変更メ切	17 水⑤	17 土⑩	17 月⑭ 授業日 (海の日)	17 木	17 日	17 火④	17 金⑦	17 日	17 水 補講日	17 土	17 日	
18 火②	18 木⑤	18 日	18 火⑭	18 金	18 月 敬老の日	18 水④	18 土⑦	18 月⑫	18 木⑭	18 日	18 月	
19 水②	19 金⑤	19 月⑩	19 水⑭	19 土	19 火	19 木④	19 日 公募推薦入試	19 火⑫	19 金⑭	19 月 一般入試	19 火	
20 木② 前期学納金納入期日	20 土⑥	20 火⑩	20 木⑭	20 日	20 水	20 金 歳末祭準備 後期学納金納入期日	20 月⑧	20 水⑬	20 土⑭ 一般入試	20 火	20 水 春分の日	
21 金②	21 日 創立記念日	21 水⑩	21 金⑭	21 月	21 木 前期卒業式	21 土 歳末祭	21 火⑧	21 木⑫	21 日 一般入試	21 水	21 木	
22 土②	22 月⑥	22 木⑩	22 土⑭	22 火	22 金① 授業開始	22 日 歳末祭	22 水⑨	22 金⑫	22 月⑮	22 木	22 金 後期成績・前期学納金振込票発送予定	
23 日	23 火⑦	23 金⑩	23 日	23 水	23 土① 授業日 (秋分の日)	23 月 クリーンキャンペーン 補講日 (午後)	23 木 勤労感謝の日	23 土⑫	23 火	23 日 休講日 (一般入試)	23 金 天皇誕生日	23 土
24 月②	24 水⑥	24 土⑪	24 月⑮	24 木	24 日 リーダーシップ・大学院 専攻科入試 ※	24 火⑤	24 金⑧	24 日	24 水⑮	24 土	24 日	
25 火③	25 木⑥	25 日	25 火⑮	25 金	25 月①	25 水⑤	25 土⑧	25 月⑬	25 木⑮	25 日	25 月	
26 水③	26 金⑥	26 月⑪	26 水⑮	26 土	26 火①	26 木⑤	26 日	26 火⑬	26 金⑮	26 月	26 火	
27 木③	27 土⑦ 専攻科内部 推薦入試	27 火⑪	27 木⑮	27 日	27 水①	27 金⑤	27 月⑨	27 水	27 土⑮	27 火	27 水	
28 金③	28 日	28 水⑪	28 金⑮	28 月	28 木① 履修登録 変更メ切	28 土⑤	28 火⑨	28 木	28 日	28 水	28 木	
29 土③ 授業日 (昭和の日)	29 月⑦	29 木⑪	29 土⑮	29 火	29 金②	29 日	29 水⑩	29 金 ※	29 月⑯	29 木	29 金	
30 日	30 火⑧	30 金⑪	30 日	30 水	30 土②	30 月⑤	30 木⑨	30 土 ※	30 火⑯	30 日	30 土	
	31 水⑦		31 月⑯	31 木		31 火⑥		31 日 ※	31 水⑯		31 日	

冬木学園へのご支援のお願い

冬木学園では、教育・研究環境の整備及び基金の充実を目的とする募金へのご協力を広く皆様方をお願いしております。

本学園の取り組みをご理解いただき、格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

$$(\text{税額控除対象寄付金}^{(*)1} - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{控除対象額}^{(*)2}$$

- ※ 1 総所得額の40%まで
- ※ 2 所得税額の25%まで

◎ 税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下により算出された額が所得税額から控除されます。

◎ 寄付のお申込方法

法人事務局総務部(担当：竹本・篠本)にお問い合わせ下さい。
 TEL：0745-54-1602
 E-mail：soumu@kio.ac.jp